

2021 年度（令和 3 年度）

# 事業報告書



# 目 次

2021年度 事業計画の方針・重点事業 概況	3
-----	
公益Ⅰ. 環境保全及び教育の研究と教育・普及に関する事業	4
1. 環境教育	
2. 「～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター」 指定管理業務	
3. 環境省日光国立公園「那須平成の森」運営管理業務	
4. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託	
5. 環境研究所	
6. 地域における環境教育事業	
公益Ⅱ. 高冷地での農業生産及び地域農産物の高付加価値化に関する事業	8
1. 生産農場として	
2. 教育農場として	
3. 食育として	
公益Ⅲ. 青少年をはじめとする多様なコミュニティに対して体験・研修・合宿を提供する 事業	9
1. 清泉寮	
2. 清泉寮自然学校・清泉寮キャンプ場	
3. ポール・ラッシュ記念館	
公益Ⅳ. 国際交流・協力及び地域社会の活性化に関する事業	12
1. 国際交流事業	
2. 地域連携事業	
公益Ⅴ. 幼児の育成と子育てに関する事業	14
1. 保育の質の向上	
2. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続	
3. 自然のリズムを大切にした食事の推進	
4. 園舎内及び周辺環境整備	
5. 視察・研修の受け入れ	
6. 他部署（自然学校及び環境教育事業部）との連携	
7. 保護者や地域の方々との協働	
8. 卒園児のバックアップ	
9. 地域のニーズに合わせた子育て支援	

収益Ⅰ. 自家製造食品及び地域特産品等の普及・販売等	15
1. 収支動向	
2. 重点業務	
3. 通常業務	
4. 出張販売	
収益Ⅱ. 宿泊設備を使ったホテル事業	17
1. 清泉寮	
本部（管理部門）	18
1. 総務	
2. 経理	
3. 施設	
4. 企画	
5. 団体営業	

## 2021 年度事業計画の方針・重点項目

### ■公益事業重点項目

#### 1. 教育機能の強化：

教育研修、環境教育、保育等を通じ、世代や立場を超えた人々のための学びの場を創出する。

#### 2. 農場の強化：（一番美しい牧場プロジェクト）

景観やお客様に配慮した設備・案内看板類を充実する。

#### 3. 地域社会への貢献

研修交流、農場、保育園等、各種事業部を通じて地域社会の健全な発展に寄与する。

### 【収益事業重点項目】

#### 新型コロナウイルス前の収益水準を取り戻す

#### 公益財団法人としての活動を支える収益構造の再構築

##### 1. 体制見直し：

コロナの影響を受ける以前の事業活動ができるように体制を見直し、再構築する。

##### 2. お客様を迎える態勢整備：

施設等の整備、プログラムの充実と利便性の向上に取り組む。

##### 3. 新型コロナウイルス前の収益力確保：

各事業部の業務を見直し、効率的且つ強固な事業運営を目指す。

##### 4. 人材育成強化：

「人材の育成」に取組み、職員教育・研修の実施や人事制度の見直し等を行うとともに、職員が働きやすい職場環境作りに取り組む。

### <概況>

事業計画は、新型コロナウイルス及び変異株の感染拡大により、公益事業及び収益事業に運営・財務の面で大きな影響を受けた。人的な交流が主となる対面式の事業、人が集まるイベント、県をまたぐ長時間の移動を伴う研修旅行等を実施することが難しくなった。オンラインでの対応や、行政の政策に一部支えられた面もあるが、活動は限られたものとなり、全体の事業収益は前年比 111%、コロナ前の 67%に止まった。

以上の状況下において、出来る範囲で実施可能な公益事業に取り組んだ。

1. 環境教育事業：with コロナ時代に対応し対面式のプログラムをオンラインに切り替えて実施するなど新たな活動形態で対応した。持続可能な社会に寄与する活動を継続した。
2. 酪農事業：循環型酪農・清泉寮有機ジャージー牛乳の理解促進を図る活動を実施した。
3. 研修交流事業：個人客を中心とした多くのコミュニティに対して、他事業と連携し、様々な体験活動、学びの場を提供した。
4. 国際交流・地域連携事業：地域での英語教育プログラムの実施など、国内で実施可能な交流プログラムのみ行った。
5. 保育事業：感染症対策をとりながら、例年通りに豊かな自然環境を活かした保育を行った。また、子育て支援体制面の強化に積極的に取り組んだ。

# 公益 I. 環境保全及び教育の研究と教育・普及に関する事業

## ～環境教育のレベルアップへの貢献～

子どもからシニア世代までを対象とした「教育」とヤマネの総合的な「研究」を両輪として、また市民・学校・企業・行政など多様な主体との協働を通して、多様な環境教育事業を展開した。

### 1. 環境教育

環境教育研究とヤマネの総合的な研究蓄積を基盤に、市民・学校・企業・行政など多様な主体との協働による環境教育事業及び環境保全事業を、清里・那須及び国内外で展開し、持続可能な社会実現に寄与する。

#### (1) キープ・フォレスターズ・スクール

##### ① キープ・フォレスターズ・スクールの役割

ESD・総合的な環境教育の推進、環境教育プログラムの提供および研究・開発、環境教育ネットワークの支援、「インタープリター」の役割の普及

##### ② 2021 年度の重点目標

A. 新規ニーズの開拓

B. オンラインを含めた活動展開

C. 森の多面的活用（ワーケーション、リトリート、森のようちえん等）

##### ③ 主催事業

「実験」「協働」「プログラム開発」という位置づけの下、以下のプログラムを実施した。

（表 1 参照）

表 1：2021 年主催事業の実績

	2021 年度		2020 年度	
	回数	参加者数	回数	参加者数
宿泊型環境教育プログラム	4 回	65 人	5 回	274 人
日帰り型環境教育プログラム	25 回	288 人	13 回	537 人

##### ④ 受託事業

学校・企業・省庁・自治体等から受託事業を受け入れた。（表 2 参照）

表 2：2021 年度受託事業の実績

区分	対象	主な利用団体
清里での プログラム	学校関係	山梨県内外小中学校・保育園、北杜市立甲陵中学校
	行政関係	北杜市
	一般	日本環境教育フォーラム、やまなし環境財団、ena
出張 プログラム	行政関係	群馬県、山梨県、北杜市、青少年教育振興機構、JICA、三重県緑化推進委員会
	一般	サントリー、電源開発
合計	206 事業	

##### ⑤ 指導教育

職員のスキルアップのための研修を行った。また、3 名（法政大学、都留文科大学、北里大学）のインターン生・学芸員実習生を受け入れた。

## (2) 清泉寮やまねミュージアム

### ① やまねミュージアムの役割

ヤマネの総合的な研究への協力・情報の蓄積、ヤマネ研究者とのネットワーク構築、森林生物多様性保全の提案への協力、環境教育・環境保全策の普及啓発。

### ② 2021年度の重点目標

これまでの研究成果の教育への展開、プログラム化と地域への普及。研究を活かした教育事業の館内展示等で発信と情報蓄積。論文発表・学会発表・シンポジウムへの協力。オンライン館内ツアー等、コロナ禍の中で展開された新たな実践の普及。

#### A. 「清泉寮やまねミュージアム」の管理運営

展示内容の更新

やまねミュージアムオンラインツアー対応

ビジターセンター関係者・中国自然体験指導者等の研修にて活用

#### B. ヤマネの研究成果を活かした環境教育

北杜市立甲陵中学校「ハヶ岳南麓学」への協力、子どもたちが地域の魅力を取材し発信する「ほくところ」への協力等

JICA 中南米環境保全コースでの事例紹介への活用

### ③ 開館日数、入館者等の実績（表3参照）

表3：2021年度やまねミュージアム開館日数・入館者数等の実績

	2021年度	2020年度	増減
年間開館日数	173日	147日	+26日
入館者数	8,321人	6,685人	+1,636人
1日平均入館者数	48.1人	45.5人	+2.6人
利用団体数	22団体	17団体	+5団体
団体利用者数	1,064人	556人	+508人

## 2. 「～ハヶ岳環境と文化のむら～山梨県立ハヶ岳自然ふれあいセンター」指定管理業務

### (1) 山梨県立ハヶ岳自然ふれあいセンターの役割

自然環境に関する情報と学習の機会を提供することを通して、山梨県の良い環境の保全と継承に貢献する。

### (2) 2021年度のテーマ＝SDGsの推進～森林の活用を通して～

### (3) 2021年度の事業実績

主催事業の実施（利用者への自然解説業務、自然体験プログラム、セルフ型プログラム、年度テーマに沿った講座等の各種企画事業、館内展示、映像上映等）、施設及び設備の維持管理、自然ふれあい施設としての機能（自然調査、教材開発）、周辺の文化施設や地域にあるネットワークとの連携、ボランティアとの協働、利用促進業務、自主事業（環境教育関連書籍やグッズの販売、スノーシューの貸し出し等）の実施

(4)開館日数、入館者等の実績（表4参照）

表4：2021年度八ヶ岳自然ふれあいセンター開館日数・入館者数等の実績

	2021年度	2020年度	増減
年間開館日	285日 ※ <sup>1</sup>	274日 ※ <sup>2</sup>	+11日
入館者数	44,298人	40,798人	+3,500人
開館（1994.11）以来の 総入館者数	2,399,925人	2,355,627人	
1日平均入館者数	155人	149人	+6人
利用団体数	130団体	93団体	+37団体
団体利用者数	5,482人	2,093人	+3,389人
プログラム回数・参加者数	410回／11,824人	409回／6,440人	+1回／+5,384人

※<sup>1</sup> 8/8～9/12 山梨県の要請により新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館

※<sup>2</sup> 4/1～5/21 山梨県の要請により新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館

### 3. 環境省日光国立公園「那須平成の森」運営管理業務

(1)事業実績

第4期の2年目（1～4期を合わせ11年目）の業務実施、地域連携の強化、利用促進のための方策を立案し実施、提案書に明記した業務（自然教育プログラム、展示、広報・普及啓発、業務の質の維持向上）、国立公園満喫プロジェクト事業への協力及び実施をそれぞれ行った。また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に取った上での施設運営を心掛けた。

フィールドセンター運営、プログラム開発と実施、屋内外の展示制作、国立公園の環境管理等を行った。なお、集合形式の環境教育人材育成事業については実施を予定していたがコロナ対策として実施を見送った。

(2)開館日数、入館者等の実績（表5参照）

表5：2021年度那須平成の森の実績

	2021年度	2020年度	増減
年間開館日	283日 ※ <sup>1</sup>	244日 ※ <sup>2</sup>	+39日
入館者数	30,535人	29,812人	+723人
(内、立寄り団体利用者数)	1,883人	1,113人	+770人
(公募)個人利用者向け利用者 負担プログラム参加者数(※1)	667人(152回)	575人(127回)	+92人(+25回)
(※1) = ガイドウォーク、同特別編、自然体験・学習プログラム、植生管理(モニタリング)プログラム			
無料ミニプログラム参加者数 (※2)	956人(238回)	788人(195回)	+168人(+43回)
(※2) = 運営会設定の実施回数 = 170回			
(受託)団体利用者向け利用者 負担プログラム参加者数	868人(31団体)	388人(19団体)	+480人(+12団体)

※<sup>1</sup> 8/26～9/30 環境省指示により臨時休園

※<sup>2</sup> 4/1～5/31、1/23～2/7 環境省指示により臨時休園

※2021年度は2020年度より開園日数が39日多かった（2020年度は2021年度よりコロナ対策による閉園期間が長かった）ため、表中の全ての数値が前年度を上回った。

#### 4. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託

地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、次の事業を行った。

- (1) 地球温暖化の現状及び地球温暖化対策の重要性についての啓発及び広報活動  
オンラインでの普及啓発、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターでの展示展開、パンフレット・教材の作成及び配布、子ども対象プログラム開催等
- (2) 地球温暖化防止活動推進員及び地球温暖化対策の推進を図るための活動を行う民間団体の活動支援  
やまなし環境教育ミーティングの共催、研修会2回実施、ホームページ・通信等での広報協力、クールチョイスサポーター支援事業等
- (3) 日常生活に関する温室効果ガスの排出抑制のための措置についての照会、相談及び助言  
345件対応 推進員・行政関係者・県民等  
山梨県委託事業：やまなしクールチョイスサポーター支援事業の実施
- (4) 日常生活に関する温室効果ガス排出実態についての調査、分析への協力  
山梨県環境家計簿・エコメモ及び全国センターアンケートへの協力  
山梨県委託事業：気候変動に関する情報収集業務の実施
- (5) 定期的又は時宜に応じた上記調査分析結果の提供  
全国地球温暖化防止活動推進センターへアンケート結果(408件)を提供

#### 5. 環境研究所

環境教育事業部の柱の1つとして、事業部横断的に研究活動を行った。

- (1) 環境保全研究  
主に清泉寮やまねミュージアムが担った（詳細は5ページ1-(2)参照）。
- (2) 環境教育研究  
酪農景観ハンドブック、ポール・ラッシュ博士リビングヒストリーの編集を進め、学会等での発表を行った。植林・森林保全作業については新型コロナウイルス感染防止のため実施しなかった。

#### 6. 地域における環境教育事業

- (1) 地域有志と協働し、「森の学童」を実施
- (2) 山梨県や北杜市と協働し、地域住民に対する環境教育を行い、各種ネットワークへ参画
  - ① フォレスターズ・スクール  
北杜市内全保育園での環境教育プログラム、市民対象の環境教育講座、市内高等学校・小学校での授業協力の授業協力
  - ② 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター及び山梨県地球温暖化防止活動推進センター  
県民対象のオンラインイベント、親子エコエネ体験等



## 公益Ⅱ．高冷地での農業生産及び地域農産物の高付加価値化に関する事業

### ～地域農業の活性化～

#### 1. 生産農場として

- (1) 標高 1,250m～1,400m の高冷地、傾斜地で 2020 年度に引き続き飼育総頭数 90～100 頭（内訳：成牛 63、育成牛 11、仔牛 9、雄仔牛 17）、搾乳頭数は年間平均 48 頭、総生産量は 206,294 kg（タカハシ乳業への出荷乳量 169,932 kg、哺乳量 36,362 kg）となった。  
また繁殖管理等の日常管理の技術的向上に努め、安心安全にこだわった有機 JAS 牛乳の生産に努めた。
- (2) 粗飼料の完全自給を目指し、圃場（採草地 27.8 ha、放牧地 21.4 ha）の生産性向上に努めると共に環境整備（牧柵）を行った。
- (3) 牧草地に堆肥、尿等の散布を行い、循環型酪農を行った。
- (4) 山梨県農政部、畜酪総合センター、家畜共済等の協力のもと、家畜衛生管理に努めた。
- (5) 継続事業として、環境負荷軽減型酪農経営支援事業助成金を取得した。

飼育頭数	2021 年度	2020 年度	増減
成牛	63 頭	55 頭	+10 頭
育成牛	11 頭	20 頭	▲9 頭
哺乳牛	9 頭	6 頭	+3 頭
合計	83 頭	81 頭	+2 頭
内 搾乳頭数	48 頭	47 頭	+1 頭
総生産量	206,294 kg	152,807 kg	+53,487 kg

#### 2. 教育農場として

- (1) 新型コロナウイルスの影響で、短期及び長期実習生、大学等の学生・研修生の受け入れを中断した。
- (2) 学校団体プログラム 1 件実施
- (3) 一般のお客様向けプログラム
  - ① 農場内を紹介するスペシャルハイライド実施 29 回／347 人参加
  - ② 循環型酪農、有機ジャージー牛乳生産の紹介のためのジャージー牛ファンクラブ設立準備

#### 3. 食育として

- (1) 「食育」の一環として、清泉寮有機 JAS ジャージー牛乳の普及及び関連乳製品の開発、普及活動を行った。
- (2) 「雄仔牛、交雑種」を肥育して牛肉の生産を行い、食材として提供した。実績 30 頭

# 公益Ⅲ. 青少年をはじめとする多様なコミュニティに対して体験・研修・合宿を提供する事業

## ～地域のランドマークとして活性化に貢献～

### 1. 清泉寮

公益財団法人キープ協会の中核施設としての使命と役割を果たすと共に、研修宿泊施設としての受け入れ体制の整備・向上に取り組んだが、前年度から続くコロナ禍で大きな影響を受けた。

- (1)教育旅行は下記の実績数値の通り、コロナ禍でその多くがキャンセルとなった。しかし隣接県を中心に提案活動を行い、感染状況が比較的落ち着いた10月と3月に計5校の新規学校団体の利用に繋げることができた。
- (2)2022年度に開始するジャージー牛ファンクラブ会員向けモニター体験プログラム付き宿泊プランを設定し、長年取り組んでいる循環型酪農事業への理解促進につとめた。
- (3)環境教育事業の一環として、宿泊客に対し体験プログラムを積極的に紹介し、環境教育及び自然環境への理解を深める機会を提供した。
- (4)地元食材の積極利用を継続して地域生産者の支援を行うと共に、地産地消などの食育に関するメッセージの発信に努めた。
- (5)前年度に続き地域を対象にした宿泊プランを設定し販売した。また、イベント等は中止せざるを得ないものもあったが、地域の住民や宿泊客を対象として人数を絞り、感染対策を徹底した小イベント(9月)、3回のコンサート(12月)を実施し、コロナ禍においても地域・社会に対する貢献活動を継続した。
- (6)本部・施設部と連携して計画的に修繕・整備を行い、安全な施設運営、消費エネルギーの削減、プラスチック製品の排出量抑制など環境に配慮した形で事業を行った。

(団体利用実績)

団体利用実績数値	2021年度	2020年度	2019年度	増減(前年対比)
宿泊団体数	51件	37件	208件	+14件
宿泊団体利用者数	2,897人	1,243人	13,505人	+1,654人

### 2. 清泉寮自然学校・清泉寮キャンプ場

コロナ禍において可能な範囲での施設整備、スタッフ育成、プログラム開発を行いながら、清泉寮の姉妹施設として、団体・グループ・家族に特化した宿泊研修施設の運営を行った。

- (1)通年営業の清泉寮自然学校、夏季(7月～9月)営業の清泉寮キャンプ場と、2つの施設を活かした団体の受け入れを図ったが、長引くコロナ禍の影響を受け、特に4月～7月中旬と12月～3月の期間はほぼ休業となる等、大幅な稼働低下となった。
- (2)幼保教育関連団体は多くが実施できなかったが、引き続き情報交換を行い、次年度以降の実施に向けて準備を進めた。
- (3)清泉寮と協力し、地産地消をベースとした安心安全で健康的な食事の提供を行い、宿泊者に対して食事の際に当施設における食育について説明するなど、継続的な食育の推進を行った。
- (4)清泉寮ジャージー牧場を活かした酪農プログラム、自然環境を活かした体験プログラム等を提供し、実りのある体験・研修宿泊となるよう努めた。

- (5) 2019年度まで行ってきた『森のようちえん』『やまもりキャンプ』等の主催キャンプは、コロナ禍において実施できなかったが、感染状況が落ち着いた時期に一般募集型の体験型宿泊プログラム『プログラム&ステイ』を新規企画・実施した。

(団体利用実績)

	2021年度	2020年度	増減
宿泊団体数	36件	36件	—
うち清泉寮自然学校	34件	34件	—
うち清泉寮キャンプ場	2件	2件	—
宿泊団体利用者数	2,318人	1,926人	+392人

(一般募集型企画実績)

	2021年度	2020年度	増減
一般募集型企画数	1企画/10回	0企画/0回	+1企画/+10回
参加者数	268人	0人	+268人

### 3. ポール・ラッシュ記念館

公益財団法人キープ協会の創設者であるポール・ラッシュ博士の業績を広く紹介する仕組みづくりを進めると共に、財団の広報・教育機能の一端も担い活動した。

- (1) ポール・ラッシュの業績や歴史を紹介する通常の開館業務、ラッシュに関する資料のデジタルアーカイブ化作業の継続、収蔵資料や美術品の保存・管理業務、国内外でのラッシュ関連の資史料の検索・発見・収集、ポール・ラッシュ邸の修繕・保護・活用を行った。資料の遺贈1件。
  - (2) 季節ごとの企画展・特別企画展を2件開催（予定4件のうち、新型コロナウイルス感染拡大予防のための臨時休館で2件を中止）した。
    - ① 7月～8月：山梨県の馬術 誕生の地 キープ協会・清泉寮展
    - ② 12月～3月：県内社会福祉施設入寮者の作品を取り上げた企画展「青い鳥成人寮のうつわ」展
  - (3) 日本アメリカンフットボール協会から寄託されている殿堂において、競技に触れる機会の提供、普及活動を行った。1月3日に東京ドームで開催された全日本選手権「ライスボウル」へ副賞提供及びアウトリーチ活動の一環として出張パネル展示を行った。
  - (4) 博物館施設として、県・市や対外的な機関との連携やwithコロナ時代に即しSNS等を用いた広報活動を行った。
  - (5) 教育普及プログラムを開発・実施した。
    - ① 「聖書を学ぶ」(1回開催)
    - ② 「ロザリオづくりワークショップ」(キットでの提供)
    - ③ 「お守りサンキャッチャーづくりワークショップ」(キットでの提供)
    - ④ 「古写真を用いたフットパス」(秋期に開催)
    - ⑤ 「ミュージアムツアー」(学校・企業団体様向け)
- ※2021年度は「ポール・ラッシュの手記を読む」(月一度開催の朗読と講義の講座)「ソイルアート・ワークショップ」(フィリピンからのアーティスト招聘事業)は中止。ワークショップはキットでの提供とした。

- (6) 公益Ⅳ 国際交流・協力及び地域社会の活性化に関する事業のうち「1. 国際交流事業」 (1) (2) (3) (5)の共同におけるインターン生の受入<中止>
- (7) 地域の博物館・美術等が参加する八ヶ岳ミュージアム協議会のデジタル広報を担当した。
- (8) 地域へ良質な文化を届けることを目的とした他部署と連携  
環境教育事業部と協働し、『清里開拓の父 ポール・ラッシュ博士 リビングヒストリー』・『酪農景観ハンドブック』の各冊子の編集・発行、冊子と連動したプログラム開発を行った。
- (9) 受託事業としての講演・執筆
- ① 立教大学全学カリキュラムにおいて立教学院とポール・ラッシュを学ぶ講義開講（秋期、立教大学での講義）の兼任講師を務めた。
  - ② 北杜市内小学校において道徳授業の講師を務めた。
  - ③ 冊子『清里開拓の父 ポール・ラッシュ博士 リビングヒストリー』全編、冊子『酪農景観ハンドブック』歴史パートの執筆を行った。
- (10) ポール・ラッシュ奨学金  
立教大学でボランティア活動を行う学生 1 名に、ポール・ラッシュ博士記念奨学金を給付した。
- (11) 新型コロナウイルス感染拡大予防のためインターネットを活用し、バーチャルツアー（館内及び屋外の歴史スポット巡り等）や ZOOM での講義を行った。

（開館日数・入館者数等の実績）

	2021 年度	2020 年度	増減
年間開館日数	202 日	135 日	+67 日
入館者数	3,494 人	3,257 人	+237 人
1 日平均入館者数	17.2 人	24.1 人	▲6.9 人
団体数	12 件	15 件	▲3 件
団体入館者数	533 人	600 人	▲67 人

※以下の期間は新型コロナウイルス感染拡大に伴い休館日を設定

4/1～7/16 平日休館

8/14～9/17 蔓延防止措置に伴う臨時休館

## 公益Ⅳ. 国際交流・協力及び地域社会の活性化に関する事業

### ～新型コロナで中断された事業の再開に向けて～

#### 1. 国際交流事業

「異なるものをつなぐ」「青年への希望」を軸に、国際交流を通じた青少年育成および地域貢献を目指し、地域の学校や国内外の大学・NGO等の多様なコミュニティと連携しながら、事業内容の充実と発展に取り組んだ。また、各国の新型コロナウイルス感染拡大状況を注視し、交流事業の実施における安全性の確保と配慮に努めた。

##### (1) 北杜市米国ケンタッキー州姉妹地域間交流事業 【北杜市受託事業】 <中止>

例年、下記の北杜市の小中学生、大人の幅広い年齢層の国際交流事業の実施に協力している。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により事業は中止されたが、交流関係者との連携を図った。

- ① 北杜市代表団米国ケンタッキー州マディソン郡親善訪問事業
- ② 北杜市中学生米国ケンタッキー州マディソン郡ホームステイ派遣事業
- ③ 米国ケンタッキー州マディソン郡代表団北杜市親善訪問事業
- ④ 日米文化交流員派遣・受入事業
- ⑤ 子ども絵画交流

##### (2) 国内外のインターン生の受け入れ

国内の青少年を受け入れ、ポール・ラッシュ博士の精神や功績の次世代への継承・普及を図った。新型コロナウイルスの影響により、海外インターン生の受入を中止したが、関係者との連携・コミュニケーションを図った。

- ① 海外インターン生 (5～12月)
- ② 国内インターン生 (8～3月) <一部受入> 8名

##### (3) 地域への国際理解プログラムの実施

###### ① 地域での主催英語教育プログラムの提供

国際交流をキーワードに、地元地域の子どもたちへ国際理解のための英語プログラムを実施した。新型コロナウイルスの影響により、地域英会話プログラムの一部、及び「清里イングリッシュキャンプ」を中止した。

A. 地域英会話プログラム 4-7月、10-12月<週2回実施>、1-3月<中止>

B. 清里イングリッシュキャンプ 6-7月、11-12月 計6回実施 <中止>

###### ② 北杜市立甲陵高校 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業への協力

甲陵高校の設定した課題「グローバルに活躍する人材の育成」「社会との共創」をテーマに、環境教育事業部では日帰り授業を実施した(4-9月)。また、英語による環境教育プログラムについては、新型コロナウイルスの影響により中止した(9月)。

##### (4) 絆プロジェクト【ピース・フィールド・ジャパン主催】への協力 <中止>

例年、イスラエル・パレスチナ・日本の3地域の青年を受け入れているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により受入を中止した。

##### (5) 北フィリピン青年育成事業への協力 <中止>

例年、現地の環境教育スタッフ2名をインターン生として招聘しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により受入を中止した。

(6) 国際交流団体・公的機関との連携（通年）

(7) ウェブサイトを通じた情報発信（通年）

## 2. 地域連携事業

### (1) 地域連携業務

- ① フードバンク山梨と連携し、貧困な環境に置かれた子供たちの支援に取り組んだ。
- ② ウクライナ人道危機への支援のため、各店舗に募金箱を設置し、お預かりした募金を山日 YBS 厚生文化事業団に寄託した。
- ③ 八ヶ岳観光圏事業や清里観光振興会等の地元各種団体・組織と連携し、歴史・文化・観光等の面から地域連携に取り組んだ。

### (2) ポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～2021 の開催 <中止>

ポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～2021 は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。

## 公益Ⅴ． 幼児の育成と子育てに関する事業

～育児・子育て支援を通じた「地域社会の健全な発展」に貢献～

～幼児の育成 ～ 幼児の主体性を大切に・豊かな感性を育む～

キリスト教の精神に基づき「一人ひとりを祝福する保育」を保育目標に掲げ、また「森の保育園」のコンセプトのもと、地域の資源である豊かな自然環境を積極的に活かした保育活動を重点的に行った。

### 1. 保育の質の向上

「キリスト教保育」は週に一度は教会での礼拝を行い、職員が礼拝での聖話を子どもたちにするために、司祭との勉強の時間を持ち、祈る事の大切さを学んだ。「森の保育」「野外におけるリスクマネジメント」は園内研修として、フィールドでの研修を含め、6回行った。

### 2. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続

「異年齢児保育」については、3・4・5 歳児を二つのグループに分け、模倣や助け合いを目的に育ち合える場作りを行った。0・1・2 歳児も年齢別ではなく、成長に合わせて2グループに分けての活動を行った。「森の保育」は一年中を通して（雨の日や雪の日も）森に出掛け、季節の恵みを感じながらその時々に合わせての活動を行った。

### 3. 自然のリズムを大切に食事の推進

自然のリズムに配慮した生産者への理解や旬の食材利用を心掛け、地域の生産者からの食材を購入した。また、作って食べることの楽しさや大切さを味わうことを多く経験することができた。アレルギー対応や月齢に合わせた食事の提供に配慮した。

### 4. 園舎内及び周辺環境整備

職員・保護者、地域の方々と環境整備の日を設け、定期的に環境整備を行った。

### 5. 視察・研修の受け入れ

新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。

### 6. 他部署（自然学校及び環境教育事業部）との連携

「森の楽童」の実施については環境教育事業部のレンジャーと協働して取り組んだ。自然学校とは、フィールドを共用し整備を行った。

### 7. 保護者や地域の方々との協働

保護者主催の「森の楽童」は年に12回行い、フィールドの貸し出しと人材協働を行った。「水曜文庫」（文庫活動）はコロナウイルス禍のために、年度の後半に少人数の対応での貸し出しを行った。

### 8. 卒園児のバックアップ

「卒園児キャンプ」はコロナウイルス感染防止のため実施しなかった。

### 9. 地域のニーズに合わせた子育て支援

地域の子どもたちの受け入れ体制強化のため、2022年度の認定こども園への移行と事業所内保育所開設に向けた準備を行った。

## 収益 I. 自家製造食品及び地域特産品等の普及・販売等

公益財団法人キープ協会が行う公益事業の経済的基盤を支えるため、様々な事業を行い収益の確保に取り組んだ。

### 1. 収支動向

(金額：千円)

収入部門	2021 年度	2020 年度	増減
売店	190,103	174,320	+15,783
ソフトクリーム	101,034	91,302	+9,732
飲食	56,627	52,369	+4,258
合計	347,764	317,991	+29,773

新型コロナウイルス感染拡大の影響が長引き、厳しい状況が続いている。

外出自粛要請などによる観光地の入込客減少は継続し、とくに団体客の大幅減少継続が収入減の要因となった。

しかし、様々な業務改革に取り組んだことにより、前年に比べ収支状況は改善された。

最終的には前年比 **109.4%** という結果に終わった。

### 2. 重点業務

2021 年度における重点業務を以下の通り実施した。

- (1) 新 POS システム導入による業務効率化とコスト削減
- (2) 清泉寮ファームショップ・レストランのセルフサービス化
- (3) キープ内客単価の向上を図る、お客様の滞在時間延長化
  - ① 各店舗における新型コロナウイルス対策の強化
  - ② 清泉寮ジャーキーハットを中心とした各店舗間の連携
  - ③ 清泉寮周辺および店舗周辺の環境美化活動
- (4) 清泉寮ジャーキーハットにおけるお客様の利便性の向上と滞在時間延長

### 3. 通常業務

通常業務は以下の通り実施した。

- (1) 店舗運営（清泉寮ギフトショップ・清泉寮ジャーキーハット・清泉寮ファームショップ・清泉寮新館売店）および通信販売
- (2) やまなしグリーンゾーン認証に基づく徹底した新型コロナウイルス対策
- (3) ギフト需要に対応した 自社通販および百貨店等の産直販売
- (4) 物産展および催事等への出張販売（別表参照）
- (5) 天然酵母によるこだわりのパンを自家製造
- (6) 地元産および県内産の果実を使ったジャムを自家製造



- (7) ジャージー牛乳の消費促進および高付加価値化を図った商品展開
- (8) 「人と地球の健康」をキーワードとした 食の安全と環境への配慮を強く意識したメニュー展開
- (9) ジャージー牛乳および清泉寮ジャージー牧場産の牛肉を使用したメニュー展開
- (10) 付加価値を高めたオリジナル雑貨商品の製作
- (11) 各店舗コンセプトの明確化による複数店舗利用促進
- (12) 各種インフォメーションの充実による複数店舗利用促進
- (13) 各種媒体およびメディアを活用した広報宣伝
- (14) 顧客満足度を高める 接客・サービスの向上
- (15) 子供向け設備・サービスの充実
- (16) 景観に配慮した各店舗周辺的环境整備
- (17) ガーデン管理および環境美化による癒しの空間を提供
- (18) 各店舗間の横断的なシフトによる効率化で人件費増加を抑制
- (19) 業務の効率化によるコスト削減
- (20) 収入に応じた支出管理の徹底
- (21) POSシステムと購買の一元化による徹底した仕入・在庫管理

#### 4. 出張販売

(1) 実施 4 件

場所	事業名	期日
DCM くろがねや稲城押立店	出張販売	6/12～7/4
DCM くろがねや稲城押立店	出張販売	11/6～11/28
京王百貨店 新宿店	元祖有名駅弁と全国うまいもの大会	1/7～1/20
東武百貨店 池袋店	47 都道府県 にっぽんの味	3/10～3/15

(2) 実績

(単位：千円)

	2021 年度	2020 年度	増減
出張販売件数	4 件	2 件	+2 件
ソフトクリーム売上	7,291	2,328	+4,963
物販売上	1,133	420	+713
合計 (税別)	8,424	2,748	+5,676

## 収益Ⅱ．宿泊設備を使ったホテル事業

### 1. 清泉寮

研修宿泊施設としての役割を果たすと共に、一般のお客様の宿泊や食事、パーティーやブライダルなどの受け入れについても積極的に行う計画を立てたが、前年度から続くコロナ禍に大きな影響を受けることとなった。

- (1) 新ホテルシステムを導入したことで、予約状況・実績の迅速な情報共有及び各予約サイトとの連携が強化された。また業務内容の見直しを図り、宿泊手配や食事提供方法等について、効率的なオペレーションになるよう改善に努めた。
- (2) 団体を中心に稼働が大きく落ち込む中、大きな移動を伴わない県内及び隣接県からの利用者を対象とした地元向けの特別プラン（4～9月の6か月間で334件795人の実績）を設定するとともに、地産地消を重視した食事や豊かな自然などをPRし、宿泊稼働に繋がる施策を実施した。
- (3) 本館レストランでは、定期的に季節メニューを入れ替えて集客を図ると共に、国や県・市の行う飲食店支援施策『プレミアム食事券』や『北杜市×PAYPAYキャンペーン』などを効果的に活用した。コロナ禍の影響でパーティーやブライダルの実施は殆どなかった。
- (4) 宿泊利用促進のためWEBの宿泊特設ページを高い頻度で更新し、魅力ある宿泊プランをアピールした。また季節ごとのポスターやチラシを作成し近隣施設に掲示・配布するなど、情報発信を積極的に行った。

## 本部（管理部門）

### 1. 総務

- (1) 公益財団法人の運営  
年5回の理事会開催、定時評議員会開催
- (2) 関係団体との窓口  
山梨県・北杜市等行政、観光協会・地元企業等に対し、役員・関係部署との窓口となり各種業務を実施
- (3) 職員の管理、福利厚生等  
勤務管理の合理化・効率化、独身寮や従業員食堂の運営改善に取り組んだ。  
新型コロナウイルス対応では、協会内の情報集約や対応マニュアル作成等を行った。  
前年度に引き続き、雇用調整助成金申請業務を行った。
- (4) その他  
清里聖ヨハネ保育園の認定こども園移行手続き、事業所内保育所設置について専担者を置き、行政との交渉や申請を行った。

### 2. 経理

公益財団法人の経営管理・決算業務（年次・月次）、日常の個別取引管理・処理業務、資金繰管理業務等を主に行った。

### 3. 施設

- (1) 公益財団法人の施設の維持、管理、修繕
- (2) 施設更新に関する意見具申

### 4. 企画

- キープ協会全体の情報を収集・管理し、プレスリリースや広報媒体による発信を行った。
- (1) 日帰りレストランの季節ランチメニュー・季節やイベントに応じた景色・プログラム等の画像・動画を撮影し、広報用の素材として収集した。
  - (2) 画像・動画をカテゴリ毎に整理し、広報可能な素材をライブラリーに集約して、閲覧・ダウンロードできるように整備した。
  - (3) 清泉寮・キープ協会の各WEBページの更新頻度を高め、情報発信した。
  - (4) 営業情報・季節情報・アクセス状況などSNSを活用した情報発信（Facebook、Instagram、Twitterの連携）を行いました。
  - (5) 季節、イベント、プログラムの魅力を発信するべく、画像・動画を作成し、営業施設のサイネージ、WEB、SNSで配信した。
  - (6) コロナ禍で集客に結び付けたイベントを中心としたメディアの取り上げが縮小したことにより取材が減少したが、新規プログラムを中心に営業施設情報をプレスリリース配信・管理した。
  - (7) 清泉寮宿泊客対象のプラン紹介のメールマガジンの配信を管理した。
  - (8) 清泉寮の宿泊プラン・イベント等の情報を広報に結び付けるべく、進捗を管理した。

<対応実績>

カテゴリ	2021 年度	2020 年度	増減
大手観光情報誌(るるぶ、まっぷるなど)	22	22	±0
その他情報誌(ローカル誌、フリーペーパーなど)	46	38	+8
情報 WEB サイト、アプリなど	35	39	▲4
新聞(一般、県内紙など)	16	26	▲10
TV 番組(在京キー局)	8	9	▲1
TV 番組(ローカル)	12	15	▲3
BS・CS、ケーブル TV 番組	1	5	▲4
ラジオ番組	1	5	▲4
商材撮影(カタログ、ミュージックビデオなど)	12	14	▲2
広告出稿	7	12	▲5

## 5. 団体営業

新規営業対象先、エージェント、既存利用団体の情報を集約し、新規・リピーター利用に繋げる営業活動を行った。

- (1) コロナ禍で修学旅行等の日程・方面変更が続出する中、新規営業対象先、エージェント、既存利用団体を訪問して自然体験プログラム等を再度案内すると共に、学年に応じた宿泊施設の提案を行った。
- (2) コロナ禍により清泉寮・自然学校では企業等の団体利用は無かったが、教育旅行は 53 件 4032 名の利用があった。
- (3) レストラン日帰りランチ団体は、前年度比で増加したが、コロナ前の水準までは回復しなかった。
- (4) 売店・ソフトクリーム利用の日帰りバスツアーはコロナ禍でキャンセルが多く、前年比マイナスとなった。
- (5) レストラン各種パーティー(忘年会・新年会・謝恩会・ブライダル)はコロナ禍によりブライダルを除き利用は無かった。ブライダルは 8 件の利用があったが、家族のみの挙式や新郎新婦だけの写真撮影で 1 件あたりの規模が小さくなった。

<利用実績>

	2021 年度	2020 年度	増減
(3) 日帰りランチ団体	39 件 1600 人	34 件 897 人	+5 件 +703 名
(4) バスツアー	82 件 4088 人	122 件 5268 人	▲40 件 ▲1180 人
(5) 各種パーティー ブライダル	8 件	3 件	+5 件